

授業科目名： 比較文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 玄二郎 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）（高校 公民）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学」		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</li> <li>・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</li> </ul>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化における比較論とは</li> <li>(2) 初めてのヨーロッパ、ポルトガルとの出会い</li> <li>(3) 天正遣欧少年使節団の見たヨーロッパ</li> <li>(4) 潜伏キリシタンを考える</li> <li>(5) 岩倉具視の見た世界の中の日本</li> <li>(6) ペリー提督の見た日本</li> <li>(7) 日本とフィンランドの福祉に見る国家像</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>人・モノ・社会を物差しに文化を考える。わけても、日本から見た外国、外国から見た日本を時系列に望見してみる。文明は時に連れて発展をとげている。しかし、文化は進化しているか。人間は進化しているか。政治、社会、風俗に焦点をあて、複眼で二つの事象を見てみたい。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回：文化における比較とは</li> <li>第2回：新しい文明、文化との出会い ポルトガルと大航海時代</li> <li>第3回：初めての西洋との出会い 鉄砲伝来・キリスト教伝来</li> <li>第4回：天正遣欧少年使節団の見たヨーロッパ</li> <li>第5回：潜伏キリシタンを考える</li> <li>第6回：南蛮屏風から見えた歴史</li> <li>第7回：シーボルトと日本</li> <li>第8回：ペリー提督の見た日本</li> <li>第9回：日本の開国をめぐるエピソード</li> <li>第10回：岩倉具視が読んだ世界の地図</li> <li>第11回：富国強兵の道</li> <li>第12回：森鴎外のみたドイツそして日本</li> </ol>			

第13回：夏目漱石のイギリスと小泉八雲  
第14回：GHQの見た日本  
第15回：日本とフィンランドの国家像  
定期試験

#### スクーリングでの学修内容

スクーリングの期日前後の社会状況の中から、シラバスに関する事項を取り上げ、学生の皆さんと比較議論する。

(主に、第3回、4回、5回、6回の内容を含む。)

#### テキスト

(1) 高野悦子・伊藤玄二郎編(1993)『図説ポルトガル』河出書房新社

(2) 中村 光夫著(1954)『日本の近代小説(改版)』岩波新書

その他、時代とジャンルが多岐にわたるのでシラバスに沿って適宜、参考資料を紹介する。

#### 参考書・参考資料等

若桑みどり『クアトロ・ラガッティ』(2004) 集英社

#### 学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。